

## 宮代町立図書館 平成 28 年度上期事業概要

## (1) 利用統計

- 別紙参照 1) 入館者・登録者・貸出者数 2) 個人貸出数・予約数  
3) 行事参加者数 4) 広域貸出数

## (2) 主たる事業

1) 子どもの読書活動の推進と小中学校との連携強化

- ① 第 5 回「宮代町 図書館で調べる学習コンクール」の参加促進を図るために、調べる学習ワークショップを小学生、中学生向けに各々開催した。  
小学生の部には 27 名(子供 15 名、大人 12 名)の参加があったが、中学生は 1 名のみだった。
- ② 2 回目となる「みやしろ らんどせるブック」(小学校 1 年生へのセカンドブック事業)は新 1 年生 256 名中、図書館利用の新規登録者 91 名、既登録 141 名、不所持 12 名、発行不要 12 名となった。
- ③ 小学生の見学、中学生の社会体験学習を多く受け入れた。  
百間小・県立宮代特別支援学校小学部の見学、前原中、須賀中、久喜市立太東中の体験学習受入。
- ④ 夏休みに 2 回目となる TOSS 埼玉(先生のボランティア団体)による「読書感想文教室」を開催し、38 名の参加があった。
- ⑤ 県立宮代特別支援学校小学部 1 年生(15 名)に「みやしろ らんどせるブック」事業を開始した。  
障害のある子供たちも熱心に絵本の読み聞かせを聴いていた。
- ⑥ 中・高校生向けビブリオバトルを開催し、春日部女子高校 2 名、百間中 3 名、合計 5 名の参加が得られた。残念ながら、聴衆が少なく次回への課題となった。来年度は中学生を対象を絞り、全町立中学校から参加があるよう準備したい。
- ⑦ 2 回目となる「夜のこわ〜いおはなし会」は大盛況で子供 50 人、大人 35 人の参加があった。

2) 町民ニーズに対応した利用者サービスの改善

- ① カラーコピーサービスを 4 月 1 日から開始した。
- ② 新規行事を色々と実施した。  
耳で聞いて楽しむ「古事記」:「神話を語る会 桃の実」との共催による、古事記の語り。  
飼育係の仕事とリスザルの人工哺育:東武動物公園飼育係によるリスザル子育ての話。  
ロボット工学博士が大集合!:日本工業大学工学博士 4 名による最新ロボット研究の講演
- ③ 特集展示として「ハコニワ図書館」(参加者が館長となり、テーマを決めてお薦め本を展示する)を実施し、好評であった。
- ④ 「閉館の音楽放送が長すぎるので、もっと短くするべきだ」というご意見があったので、30 分前放送を短くした。(4 分→1 分 17 秒)
- ⑤ 「新聞をめくる補助剤を置くべきだ」というご意見があったので、新聞閲覧用の指サックを置いた。

### 3) インターネット、ITを利用した利用者サービスの展開

- ①利用者用PCを Windows7 から Windows10 へアップ・グレードした。
- ②郷土資料のデジタル化事業を開始した。平成 29 年 2 月に公開予定。  
「宮代町史 通史編」「宮代町史 民俗編」「水と緑の宮代」と宮代町指定文化財を始めとする郷土資料を高精密画像デジタル化し、公開する。町史の検索機能付与、土器の 3D 画像化、絵図の高精密画像化、古文書への筆耕付与などによって、宮代町の歴史と郷土資料をより身近に学び、楽しむことができる。

### 4) 魅力ある蔵書構築と情報提供能力の向上

- ①上期実績 図書:購入 2412 冊、寄贈 217 冊 雑誌:860 冊 AV:31 点
- ②「みやしろ電子図書館」(TRC-DL 利用電子書籍貸出サービス)を 4 月 1 日より開館した。  
登録者数 91 名 貸出冊数 200 冊 閲覧回数 429 回
- ③「みやしろ電子図書館」に宮代町郷土資料館の平成 7 年度から平成 27 年度の企画展(含む巡回展)図録を掲載した。宮代町の歴史、文化遺産、生活史などが紹介されている。今後は、特別展図録なども掲載し、デジタル郷土資料の充実を図る。

### 5) 柔軟で弾力性のある運営体制の構築と施設の整備

- ①今年度も、特別支援学校及びアバンティ(障害者自立支援NPO)の体験研修の受け入れを積極的に行っている。
  - ・県立宮代特別支援学校の先生 5 名及び春日部特別支援学校の先生 1 名の研修を受入れた。
  - ・アバンティから定期的(3~4 カ月毎)に交代で研修生を受入れた。
- ②チラーに高温排気がこもり、空調効率が落ちると指摘されたので、天井覆いカバーを取り外し、風通しを良くした。その結果、冷房効率が上がり、上期の使用電力は対前年で 94%となった。